



-“農家が粒立つ社会”を目指して- 株式会社ユニークアグリ



岐阜大学起業部
さとう あい
岐阜大学応用生物科学部4年 佐藤 愛

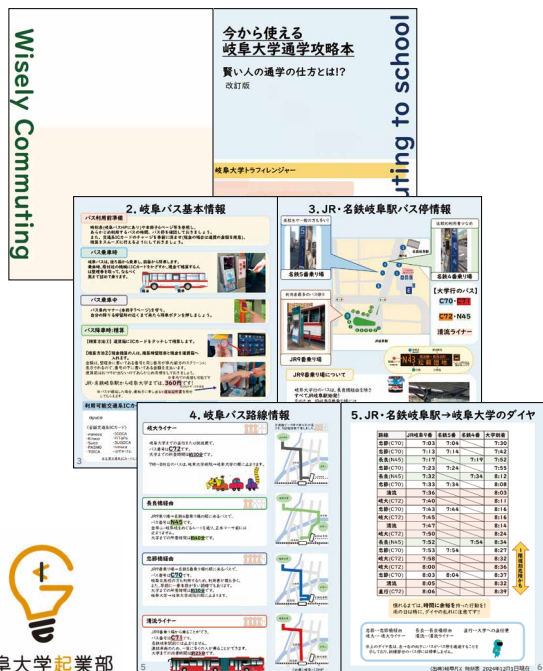


図1 作成した通学冊子(起業部)

はじめまして、岐阜大学応用生物科学部4年の佐藤愛と申します。私は2022年岐阜大学に入学し、同年5月に岐阜大学起業部に入部、そして2024年7月に株式会社ユニークアグリを設立いたしました。本記事では、会社設立までの経緯と今後の展望について書かせていただきます。

学部1年生時には、有志、起業部メンバーとともにバス通学時の混雑解消を目的に、“帰ってきた!トラフィレンジャープロジェクト”を立ち上げ、岐阜乗合自動車株式会社との協議や、岐阜大学生協と共同で次年度新入生向け通学冊子の作成等に取り組みしました(図1)。

学部3年生時には、岐阜大学工学部松下光次郎先生の研究室でスマート農業に関する共同研究のアルバイトに参加し、技術を学びつつ会社設立に向け準備を始めました。会社を設立しようと思った理由は、地元の祖父母の農作業を手伝った際、不確実な収量と口伝えにより継承

されてきた農業技術・ノウハウが地域の活力とともに失われることに危機感を覚えたためです。そして2024年7月、地域農業の後継・データ技術未浸透の課題を解決するべく、“農家が粒立つ社会”を目指し、松下研究室の学生とともに株式会社ユニークアグリを設立いたしました。

これまでの国内農業は熟練者の勘・コツで農作物の栽培が行われており、ノウハウや技能などについて明確に伝えることができていませんでした。そこで株式会社ユニークアグリでは、岐阜県内のトマト、イチゴの農業関係者と協力して、効率の良い栽培を実現するための生育調査アプリ、生育調査デバイス製品の開発・販売をしています。特に生育調査アプリの強みとしては、広く使われているLINEをプラットフォームとすることで、行政、農業団体、生産者の3者が、生産者の農作物の栽培状況データを簡単に素早く共有することを可能としています。これにより、3者間での情報共有の時間を大幅に短縮させ、さらに、より生産者が分かりやすいデータ表示を行うことに努めております。弊社は、地域独自の栽培技術の活性化を目指しており、現在は岐阜県のイチゴとトマトを対象としておりますが、これから対象作物、都道府県を拡大していきます。



図2 イベントへの登壇の様子(ユニークアグリ)

▶ 岐阜大学の起業プログラム
<https://tongali-gifu.net/about/>



▶ 株式会社ユニークアグリ
<https://unique-agri.com>





学生の力でつなぐ自然と地域



名古屋大学生物研究会



展示の様子

名古屋大学生物研究会(通称「生研」)は、生き物好きの学生が集まり、生物観察を楽しむサークルです。活動内容は多岐にわたり、東山キャンパス内での鳥類調査「バードセンサス(鳥セン)」や、東海地方をはじめとした各地での遠足・合宿を通じた生物観察、名大祭での生物に関する展示などがあります。また、名古屋大学博物館や各機関・団体と連携したイベントの企画も行っています。今回、2024年10月から12月にかけて実施した名古屋大学博物館野外観察園(以下、野外観察園)サテライト展示「ふるさとの自然を見つめる—東海地方の里山を彩る花々」について紹介します。

本展示では、東海地方の里地里山に多く存在する「湧水湿地」と、それを取り巻く環境に生息する生きものを写真や標本を通じて紹介しました。「東海丘陵要素」と呼ばれる植物に代表される、一般にはあまり知られていない東海地方固有の自然を広めることを目的とし、大型写真の展示により湧水湿地にいるような体験を提供しました。東海丘陵要素植物の色とりどりな花々の写真を通じて、湧水湿地が開発や自然の摂理によって減少しており、各地で保全活動が進められているものの、人為的に生態系を維持することが難しい現状を、来場者の方に伝えることができました。

さらに、ドングリの展示も同時に実施しました。ドングリは里地里山でよく見かけ、多くの方が一度は拾った経験がある身近な存在です。本展示では、日本で見られる

23種のドングリの実物と樹上で結実した写真を紹介しました。開催期間がちょうどドングリの落下時期と重なったことで、より多くの方に関心を持っていただくことができました。また、世界のドングリの展示を通じて、ドングリの多様性を実感してもらう機会も提供しました。



野外観察園での観察会の様子

11月にはギャラリートーク&野外観察園のドングリ観察会を実施し、実体顕微鏡を用いた植物観察イベントも開催しました。モウセンゴケ類の捕虫器官の粘性や、採集したドングリの花柱の構造などを観察することで、普段とは異なる視点から植物の魅力を体験していただきました。

今回の展示を通じて、四季の移り変わりとともに湿地や里山の魅力を再発見し、それらへの理解を深めるきっかけを提供できたと考えています。また、実際に現地へ足を運ぶ動機づけにもなり、多くの方々に自然保護への関心を持っていただく機会となりました。今後も生研は、多くの学生が生物観察を楽しめるよう、これまで積み重ねてきた活動を継続するとともに、生物多様性の保全や環境問題の解決を目指し、地域の方々に生き物の魅力を伝える活動を推進し、社会的責任を果たしていきます。



チラシに里山・湿地マップを掲載





名大祭での環境保全への取組



名大祭実行委員会 環境対策部

名大祭は毎年6月に開催される東海地区最大級の大学祭であり、2024年度では第65回を迎え、6月6日から6月9日にかけて4日間行われました。

名大祭実行委員会は環境への負荷を考慮してごみの分別に力を入れています。分別項目は可燃ごみ、生ごみ、プラスチックごみ、ペットボトル、ペットボトルキャップ、缶、ビン、資源紙、不燃ごみ、ダンボールと10項目にわたっており、第65回名大祭では業者の方と連携することで生ごみを堆肥化したり、ペットボトルキャップをワクチンへとリサイクルしたりすることに成功しています。また、学生や近隣住民の方々に不要となった本を譲っていただき、名大祭期間中に古本市を開催するなど近隣の方と密着した取組も行っております。

こうした活動を通して、名大祭実行委員会として環境

への取組が来場者の方にも広まっていき、環境に対する意識が大勢の人に広まっていけたらと思います。現在取り組んでいる環境への対策を継続しつつ、新たな取組にも挑んでいきたいです。



ごみステーションの運営の様子

じわじわ拡大、活動の輪



名古屋大学環境サークル Song of Earth



ごみ拾いの様子

こんにちは、名古屋大学環境サークルSong of Earthです。私たちは、通称SOE という名前で「学生からできる環境活動を実践する」ことを目標に無理なく楽しみながら様々な活動に取り組んでいます。

活動としては、毎週行う活動としてごみ拾いと花いっぱい運動を実施しています。ごみ拾いでは、週に一度、名古屋大学構内やその周辺を歩いてごみを集め、分別する活動を行っています。さらに、2024年から拾ったごみの数を種類別で数えてデータを集める、大学内のどこでごみが多いかを調査し、ポイ捨て対策を考えるという試みをしています。花いっぱい運動では、東山キャンパスの全学

教育棟前にある花壇を整備して、季節の変わり目に植え替えを行い、授業後に水やりや除草を実施して一年中綺麗な花壇づくりに取り組んでいます。

不定期活動もいくつか行っており、学校祭や学童にて小学生向けに牛乳パックを用いたエコ工作教室の開催、キャンパス内の緑に親しみを持ってもらうため植物マップの作成をしています。また、大きなイベントとして毎年3月末にリユース市を開催していて、卒業生や在学生からいらなくなった家具・家電を譲り受け、新入生などの新たな必要とする方々へ引き渡すという活動をしています。



リユース市の様子(2025年3月23日)

環境サークルSong of Earth
<https://songofearth.nagoya/>



名古屋大学下宿用品リユース市リンク
<https://reuse-nagoya.org/>



https://twitter.com/reuse_market

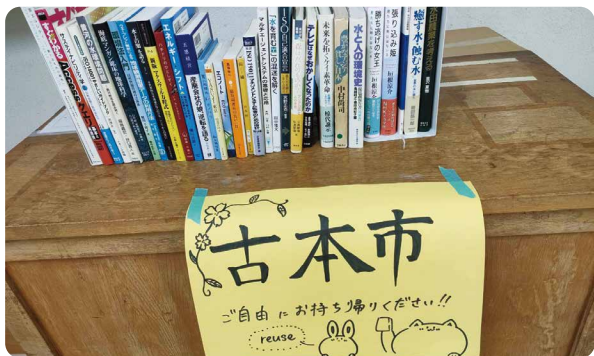




よりよい岐阜大学キャンパスを 目指して



岐阜大学環境サークルG-amet



古本市

わたしたち岐阜大学環境サークルG-ametは、岐阜大学キャンパスで環境に関する課題を見つけ、学生主体でさまざまな環境活動を企画・実践しているサークルです。資源循環の促進から生物多様性の保全まで、幅広い分野で活動を展開しています。

資源の有効活用を目指す「資源循環推進プロジェクト」では、キャンパスの資源に着目したリユース・リサイクル活動を行っています。たとえば、研究室に眠っている古本を学生に無償譲渡する「古本市」や、卒業時に手放される自転車を新しい持ち主へと引き渡す「自転車リユース市」を開催しています。また、大学の食堂から出た廃油と学生から回収した空き瓶を活用したキャンドルづくりも毎年行っています。さらに、新たな取組として、古着からできたりサイクル糸や使わなくなったクレヨンなどを使ったオリジナルのリサイクルグッズづくりにも挑戦しています。資源の循環だけでなく、活動を見た学生の環境意識を向上させることも目標にしています。

また、私たちは岐阜大学の自然保存地である「鶴ヶ池（ばんがいけ）」の自然環境の改善を目指す「鶴ヶ池自然再生プロジェクト」にも取り組んでいます。鶴ヶ池には多くの貴重な動植物が生息していますが、半世紀近く放置されてしまった結果、湿地的な生態系の衰退や岸の浸食が進んでいるのが現状です。私たちは、今ある環境を大事にしつつよりよい鶴ヶ池にしていけるため、環境調査をしたり、自然再生方策を実施したりしています。

2024年度は、学内外の多くの方々のご協力のもと、鶴ヶ池では初めてとなる池干し（かいぼり）を試験的に実施しました。今後も、生物多様性の高いエリアである「エコトーン」の創出など様々な活動を続けていきます。



鶴ヶ池での活動の様子

また、自然豊かなキャンパスの魅力を多くの人に知っていただくため、環境教育活動にも取り組んでいます。地域の方を対象とした植物イベントを開催した際は、植物を巡るキャンパスツアーを通じて樹木の魅力を紹介し、その樹木を紹介する樹名板を製作しました。この樹名板は、実際にキャンパスの樹木に設置しており、イベントに参加された地域の方からは「キャンパスに親しみがわいた」というお声をいただいています。

これからも、学生ならではの視点を生かし、よりよい岐阜大学キャンパスを目指して、さまざまな環境活動に取り組んでいきたいと思っています。



キャンパスの樹名板

岐阜大学環境サークルG-amet
<https://g-amet.mods.jp/>





環境報告書 学生編集委員企画

東海国立大学機構の環境報告書の編集には、多くの学生編集委員が関わっています。研究者にインタビューをしてその内容を記事として執筆したり、他大学を含めた学生同士で環境問題について語り合う対談企画を行うなどの学生間交流を行い、その内容を記事にまとめるなど、さまざまな形で環境報告書の編集に携わっています。

岐阜大学と名古屋大学の学生編集委員同士の交流をきっかけに立ち上がった「キャンパス生態系マッププロジェクト」の活動を紹介します。



キャンパス生態系マッププロジェクト

“もっと色々な人に大学の緑を好きになってもらいたい”——そんな思いでスタートした名古屋大学キャンパス生態系マッププロジェクトは、2025年で2年目を迎えました。岐阜大学と名古屋大学の学生編集委員の交流がきっかけとなって始まったこのプロジェクトは、名古屋大学環境サークルSong of Earthが中心となって、両大学の学生が一緒になって進めてきました（関係記事 環境報告書2024 p.57）。2024年は企画や樹木の調査といった準備が主でしたが、2025年は名古屋大学の緑を知ってもらうための実践を進めています。

左から

関原雫(岐阜大学応用生物科学部2年)
上井ゆり子(岐阜大学応用生物科学部3年)
堀部真生(岐阜大学応用生物科学部4年)
中島茉莉(名古屋大学農学部4年)
南佑奈(名古屋大学農学部1年)
木原大翔(名古屋大学農学部1年)
武居和秀(名古屋大学農学部4年)



名古屋大学発・樹木マッププロジェクト



アナログ樹木マップ(名古屋大学東山キャンパス)

名古屋大学では、グリーンフロント研究所株式会社の「ふるさと・フォト・メモリシステム」を用いた「名古屋大学デジタル樹木マップ」が完成しました。本マップはWeb上で閲覧することができ、名古屋大学東山キャンパスのどこにどんな樹木が生えているのかを細かく調べることができます。マップ作成のための調査では、約180種もの樹

木を発見できました。また、6月にはアナログの「名古屋大学樹木マップ」が完成しました。大枠は岐阜大学環境サークルG-ametが作成したものを参考としつつ、内容は名古屋大学ならではの視点にこだわりました。約半年の調査がついに実を結び、次の段階に踏み出す準備ができました。

その第一歩としては、学生向けの樹木観察会を開催しました。観察会では、樹木マップをもとにルートを決定し、東山キャンパス理系地区を中心に樹木を観察しました。また、名大祭では植物の種子やさく葉標本、写真を展示し、樹木マップを頒布しました。展示を通して多くの方々とお話しすることができ、学内の緑が学外への扉を開いてくれたのだと思うと、これからの活動により期待が高まりました。



名大祭での展示



岐阜大学発・樹木マッププロジェクト



秋の雑草ハンドブック

「岐阜大学 樹木マップ」、「キャンパス植物まるわかりBOOK『ミドリイロノジンセイ』」に続く第3弾です。

キャンパスの植物・自然に親しんでもらえるよう、分かりやすい解説に加え、作成メンバーによるひと言コメントも載せています。

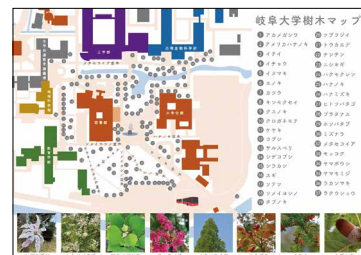


キャンパス植物
まるわかりBOOK
「ミドリイロノジンセイ」

また、特集ページでは、「遊ぶ・観察する・食べる」など、雑草のさまざまな楽しみ方も紹介しています。

普段の生活の中でよく見かける種を掲載しているのも、岐阜大学キャンパスに馴染みがある方はもちろん、そうでない方にも楽しんでいただける内容になっています。ぜひ多くの方に読んでいただきたいです。

「秋の雑草ハンドブック」や、キャンパスの樹木の紹介冊子「キャンパス植物まるわかりBOOK『ミドリイロノジンセイ』」のデジタル版はG-ametのホームページよりご覧いただけます。



樹木マップ(岐阜大学柳戸キャンパス)



プロジェクトメンバーの交流



活動報告会

2025年7月には両大学の学生が集まって活動報告会を開きました。両大学の樹木マップを見比べたり、「岐大でよく見る秋の雑草ハンドブック」を読んだりすることで、大学の緑の特性の違いを感じるとともに、その魅力を伝えるための工夫について意見交換することができました。互いの成果物を鑑賞する中で、「この表現いいね!」「こ

んな植物が生えてるんだ!」といった感嘆の声が終始上がり、活動に対するメンバーの意欲がさらに高まりました。また、G-ametの樹名板づくりや植物ツアー (p.49参照) などのイベントについてのノウハウを共有したことで、名古屋大学で実践するための具体的な課題を検討することができました。交流を通じて両大学の学生の親睦も深まり、よりいっそうプロジェクトの進展に拍車がかかったように感じられます。岐阜大学でも名古屋大学でも今後より精力的な環境活動ができればと考えています。

▶ Song of Earth 樹木マップのページ:
https://songofearth.nagoya/activity/tree_map/



▶ G-amet 植物冊子のページ:
<https://g-amet.mods.jp/キャンパス植物マップ/>



地域の未来を耕す

～飛騨美濃伝統野菜とともに守る、里山の風景～

環境報告書学生編集委員 いわもと かんだい
岐阜大学応用生物科学部2年 岩本 侃大

岐阜大学学生サークルの里山暮らし応援隊は、揖斐川町春日地区の地域振興を目的に活動しています。現在活動の拠点としている「貝原棚田」では、管理者の高齢化などにより、耕作放棄地が年々増加しています。こうした耕作放棄地は、景観の悪化のみならず害獣の被害などを招いてしまいます。こうした事態を避けるため、里山暮らし応援隊では、「貝原棚田」で飛騨美濃伝統野菜を栽培する活動を行っています。耕作放棄地を減らすとともに、地元の伝統文化を継承しようと日々励んでいます。また、春日地区の活性化のため地元のお祭りにも参加しています。2024年度は、「こいやーかすがまつり」にて、菜餅やヨモギ餅の販売を行いました。様々な人との交流を深め、我々の活動を知ってもらう良い機会となりました。

こうした活動を行うには、現地の方の理解や協力が何よりも大切です。そのため、2025年3月には揖斐川町長と対談する機会を設けていただきました。対談では、若い力で里山を活性化するモデルケースとなってほしいとの意見を頂きました。今後も棚田保全・地域活性化に取り組むべく、現地の方との意見交流を軸として活動を進めていきたいです。



こいやーかすがまつり



町長対談の様子



町長対談での記念撮影